

心臓血管外科この一年

心臓血管外科医長 眞岸 克明

副院長の和泉を含め3名体制となり2年がたちました。呼吸器疾患の取り扱いをやめたとはいえ、細々と数例の外科治療を行っておりますが、手術症例全体としては昨年とほぼ同程度を維持しております。集中治療室が整備され軌道に乗り、重症患者、心大血管術後患者を一手に引き受けて頂いており、今年はさらなる重症患者にも立ち向かえそうな予感がします。最近では80歳以上の症例が多く、治療に時間を要する症例が増えております。患者の年齢も上がっておりますが、当科医師の平均年齢もまた一つ上がりました。今年は、若い医師が来てくれるのを期待しています。

診 療

平成21年の手術件数は206例でしたが、心大血管手術症例は52例を数えました。胸部大動脈瘤に対する企業性ステントグラフト症例も着実に伸びております。腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術も増えており、合併症例に対する動脈瘤治療もより低侵襲に行えるようになりました。ステントグラフトは今後も症例は増えると予想されますが、術中に使用する透視装置がoverheatしやすく、治療の妨げとなっております。冷えたぞうきんや扇風機での冷却といった原始的な方法では限界があり、早期の透視装置更新を希望しております。今後、血管内治療症例が増えた場合、それに付随する高規格の透視装置が必要となります。患者様のため、病院収益のため、様々な恩恵となる新しい治療分野と認識しています。成人心疾患では、内科的治療の発展で、外科症例では今までより困難な症例が増えております。冠動脈バイパスでは多枝病変で合併症が多い方が多く、弁膜症でも同様に合併症患者が増えております。昨年手術症例数は別に掲載しました。

学術活動

日常診療のほか、学術活動にも積極的に参加するように心がけております。国際学会では1題、

全国学会では5題、地方会や研究会で8題を発表いたしました。いずれも心血管疾患関連の内容でありました。論文発表は、英文誌1編、他は病院誌2編でした。執筆は例年より少なく、次年度への課題となりました。

おわりに

本年は手術件数の増加とさらなる成績の向上を目指し、この地域での心臓血管疾患患者様の医療サービスの向上を目指して参ります。大動脈から末梢血管まで低侵襲な治療を積極的に進めて参ります。ハード面ではまだまだ不足がありますが、その分ソフトでカバーできるように、担当部署と連携を密に治療を進めていきます。看護スタッフをはじめ、臨床工学科、放射線技師、検査技師の皆様など多くの病院スタッフに支えられ初めて行える医療です。今年も、深夜や早朝の呼び出しの際にもよろしく願いいたします。

平成21年名寄市立総合病院心臓血管外科手術症例集計

1. 心大血管疾患	52例
(ペースメーカー植え込み、交換を除く)	
後天性心疾患	36例
胸部大動脈疾患	16例
ペースメーカー植え込み、交換	2例
2. 末梢血管疾患	120例
腹部動脈瘤	27例
末梢動脈疾患	55例
静脈疾患	24例
内シャント関連	14例
3. 呼吸器疾患	3例
4. その他	29例
合計	206例
全身麻酔症例	155例
脊椎麻酔症例	27例